

発達障害者サポーター  
発達障害者支援コンサルタント  
養成・派遣事業

平成22年2月4日(木)

山梨県

# 事業の経緯

## 平成17年度～19年度 発達障害者支援体制整備事業

○「県内市町村実態調査」実施結果

⇒専門職の確保困難、社会資源不足(6割強)

○「圏域支援体制モデル事業」実施結果

⇒一貫した効果的な支援を行うためには、関係機関の連携が重要

⇒核となる「発達障害者支援コーディネーター」の配置は有効



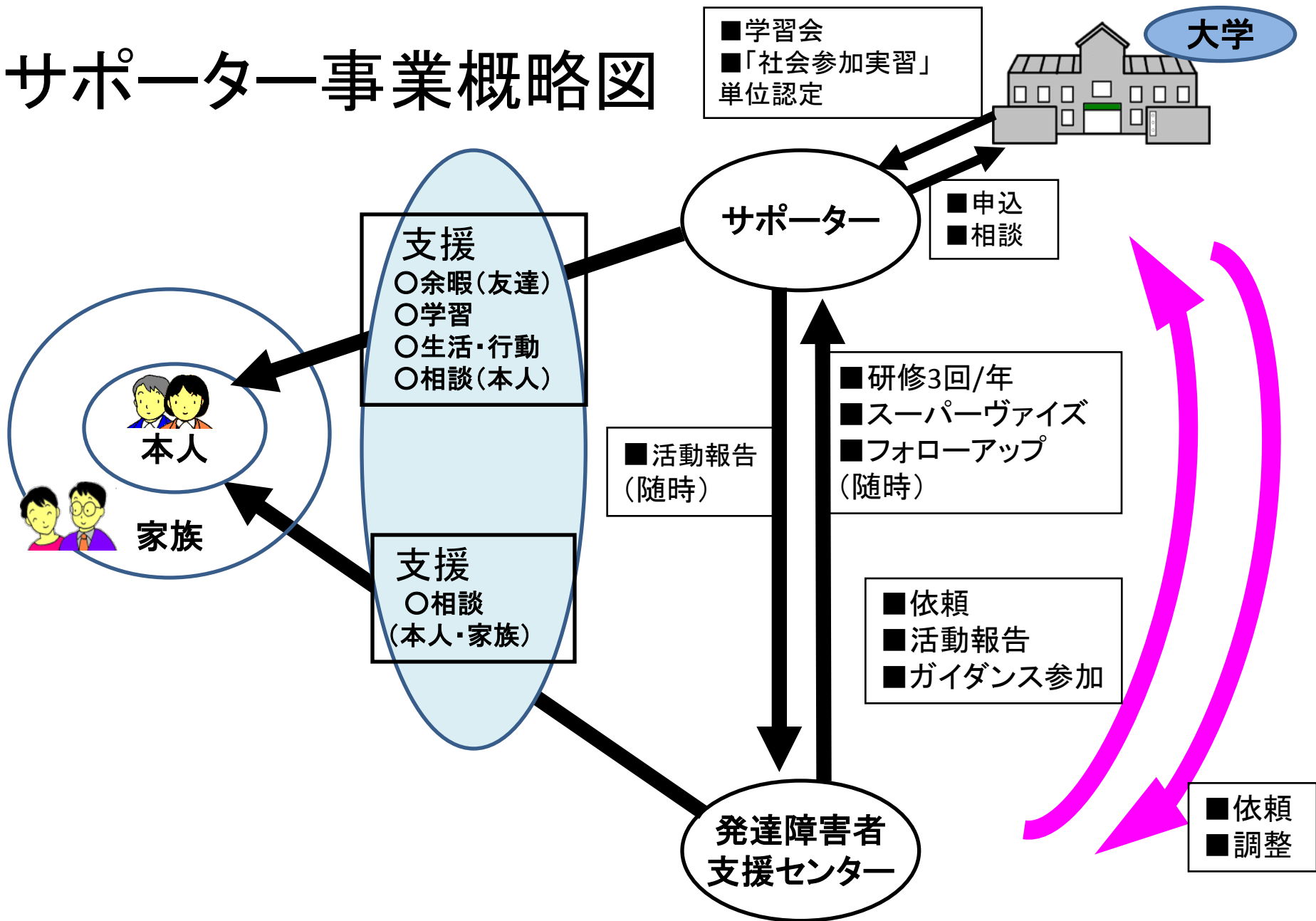
## 平成20年度～21年度 発達障害者支援開発事業

1「発達障害者サポーター養成・派遣事業」

2「発達障害者支援コンサルタント養成・派遣事業」

# 1 発達障害者サポーター 養成・派遣事業

# サポーター事業概略図



※センターとサポーターの並行支援

# 事業目的

- 継続的な対人関係の機会を通して、きめ細かい生活上の助言や支援を行うこと
- 「社会性の障害」などの軽減を図り、社会参加の準備となること

# 事業方法

- (1) サポーター養成
- (2) サポーター派遣
  - ア 派遣対象者の選考
  - イ 派遣前準備
  - ウ 派遣内容
  - エ サポーター支援
- (3) 事業効果検証
  - ア 派遣対象者への質問紙調査
  - イ サポーターへのアンケート調査
- (4) サポーター必携の作成

# 事業結果

## (1) サポーター養成

### ■対象者

県内の福祉・心理・教育などを専攻している大学、大学院生や社会人など障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者を対象とし46名養成した。  
(男性10名、女性36名)

### ■サポーター養成研修

発達障害の基礎知識やサポーター活動を行う上での心得を学ぶ基礎研修と事例検討研修を行った。

平成20年度 基礎3回 / 事例検討1回

平成21年度 基礎1回 / 事例検討3回

## (2) サポーター派遣

### ア 対象者の選考(選定)

#### ■ 派遣対象者

発達障害者支援センターの相談ケースで、相談相手を必要とするケースを担当者が選び、保護者、対象者もサポーター派遣を希望した者12名とした。

【性別】男性7名 女性5名

【年齢】15歳～21歳

【診断名】広汎性発達障害9名 学習障害1名  
その他2名

【派遣状況】11名継続 1名中断

\* 中断理由: サポーターが大学卒業後、派遣対象者の居住地が遠隔地であり後任サポーターが見つからないため

## イ サポーター派遣前準備

### ■ マッチング

対象者とサポーターの居住地、趣味や人柄などから対象者に合うであろうサポーターをセンタースタッフで協議した。

多くのサポーターが初学者であるため、家族機能の高いケースや、比較的適応が良いケースを選んだ。

### ■ お見合い

対象者、保護者、サポーター、センターの担当者と合同面接を行い、自己紹介やお互いの趣味、今後の活動についての希望を話した。尚、派遣決定はこの時点では行わず、後日対象者から希望の有無を確認し派遣スタートとした。



## ウ サポーター派遣(活動)内容

- 頻度：月1、2回～不定期
- 場所：家庭、外出、センターの相談室など
- 時間：1回1時間半～2時間程度
- 内容：
  - ① 余暇支援(友達支援)
  - ② 学習支援
  - ③ 生活・行動支援
  - ④ 相談支援
  - ⑤ 活動報告：活動予定や結果等報告書を作成し  
センターへ提出

## ■ 具体的支援内容

支援項目	支援内容
①余暇支援(友達支援)	映画
	ショッピング
	カラオケ
	散歩
	レストランや喫茶店などでの食事 趣味、興味、日常会話
②学習支援	宿題・レポート作成のお手伝い
③生活・行動支援	公共交通機関の利用
	高校進学へ向けての学校下見、通学練習
	美容院や教習所などへの同行
	料理や掃除、買い物
④相談支援	家庭・学校生活の悩み
	対人関係の対応の仕方
	約束や謝罪の仕方など社会生活マナー
	進路や受験勉強についての悩み

## エ サポーター支援

### ■ 家庭訪問や外出における危機管理

ボランティア保険への加入

マッチングからお見合い、フォローアップの強化

### ■ 倫理性

養成研修を通して守秘義務厳守の徹底

事業規約を定め、対象者とサポーターの契約関係を形成し双方から文書で合意

### ■ 対応や不安、悩みなどの相談、支援

センターで随時フォローアップ

研修会や事例検討の開催（スーパーヴァイズ）

### ■ サポーター必携の作成

# (3) 事業効果検証

## ア 派遣対象者への質問紙調査

### ■方法①

サポーター派遣前と派遣後に①自己肯定意識尺度;(平石,1990;下位尺度は「自己受容」「自己実現態度」「充実感」「自己閉鎖性・人間不信」「自己表明・対人的積極性」の6因子)②社会スキル尺度KISS-18(菊池,1988;下位尺度「初歩的なスキル」「高度のスキル」「感情処理のスキル」「攻撃に代わるスキル」「ストレスを処理するスキル」「計画のスキル」の6因子)を対象者に用いて比較検討を行った。

### ■方法②

取得したデータからその人の下位尺度得点を算出した。(各下位尺度の比較可能にするために各項目数で割った。)その後、先行研究(平石、1993)(菊池、1998)の平均・標準偏差データから各人の下位尺度得点を比較し、標準得点(z得点)に変換しパーセンタイル順位を算出した。

尚、サンプル数が少ないので、相関分析等は見送った。

### ■対象者

派遣対象者12名のうち、派遣回数5回以上の4名を対象とした。

# ■ 質問紙調査結果

## ①「自己受容」因子

3名の因子得点が派遣後に上がり、1名が下がる結果となった。

## ②「自己実現態度」因子

3名の因子得点が派遣後に上がり、1名が下がる結果となった。

## ③「充実感」因子

4名全員の因子得点が派遣後に上がる結果となった。

## ④「自己閉鎖性」因子

3名の因子得点が派遣後に下がり、1名が上がる結果となった。

## ⑤「対人積極性」因子

1名の因子得点が派遣後に上がり、2名が下がり、1名が変わらない結果となった。

## ⑥「対人緊張」因子

2名の因子得点が派遣後に上がり、2名が下がる結果となった。

## ⑦「対人スキル」因子

2名の尺度得点が派遣後に上がり、2名が下がる結果となった。

## ■調査結果による考察

### ①自己肯定意識尺度

◆サポーター派遣により、対象者の「自己受容」「自己実現態度」「充実感」は上がる可能性が示唆された。

### ②社会スキル尺度

◆サポーター派遣により、活動範囲の幅が広がり生活・対人スキルが上がる可能性も示唆された。一方、対人緊張の高まりや社会スキルの低下も見られた。このことはサポーターとの継続的な関わりを通して、他者への意識や自己認知の高まりによるものと推測できる。

◆全ての得点が平均データに比して低い傾向が見られ、今後細かい上昇の測定も図れる尺度を用いることが検討される。

# イ サポーター等へのアンケート調査

■方法 アンケート調査

■対象者

サポーター9名・サポーター派遣対象者の親御さん7名

■結果1（親御さん）

①サポーター事業を利用しての満足度（5段階評価）

9名中、100%1名、75%4名、50%2名

- ・親や兄弟以外の年齢が近い人と交流が持てたことが良かった。
- ・子どもの特徴を理解した上での関係であるため安心感があった。
- ・今後継続していけるかが不安である。
- ・個人情報保護

②サポーター事業に期待すること（自由記述）

- ・親には言えない悩みなどの相談ができる関係になってもらいたい。
- ・同世代の視点で間違っている点は指摘し、励ましてほしい。
- ・外出や社会生活の手助けをしてもらいたい。

## ■結果2(サポーター)

### ①研修について(自由記述)

- ・サポーターと共に学び、サポーター同士で意見交換することで自分の活動に活かすことができると思った。
- ・悩みを共有することで、新発見が多く見つかった。
- ・それぞれの場面について専門の先生から意見も頂けて良かった。

### ②サポーター活動する中での難しかった点。それを改善するために工夫した点(自由記述)

- ・場の雰囲気かわからず喫茶店で大きな声になり困った。
- ・対象者の不安定さや家庭事情の複雑さから、気持ちのコントロールが難しかった。
- ・会話が続き困ったが、ゲーム活動をしながらコミュニケーションを図った。
- ・対象者がどのような対応を求めているのかがわかりにくかったが、対象者の気持ちを重視した。

### ③サポーター活動を進める上で支援してもらいたかったこと

- ・お互いに緊張や不安が多く、また関わり方などを参考にできるため、定期的にセンターの人に入ってもらえると良いと思った。
- ・活動報告書に悩みを書いた際、メールでアドバイスをいただいたので気持ちが楽になった。



### ③サポーター活動開始前と後での対象者の変化について

(自由記述)

- ・パニックを起こす回数が減った。
- ・通信制高校に通い始めた。
- ・だんだん打ち解けてくれた感じがした。「あなたと友達ですよ」という信号を出したのが良かったかもしれない。
- ・電車の乗り方など日常生活においてできることが増えた。
- ・変化は特に感じない。
- ・だんだんと会話がスムーズになり、表情や服装も変わったように思う。
- ・視線の合う時間が極端に長くなった。

### ④サポーター活動に参加しての感想

- ・知識だけではなく実際関わってみなければ理解できないこともあり良かった。
- ・教員になるにあたって「周りの子と同じようにさせる」「その子を変える」のではなく、「その子のパーソナリティを認める」ことが何より大切であると身をもって実感することができた。
- ・対象者と様々なことを体験し、悩んだりすることで互いに成長し将来的に役立つと思った。

# 考察

## (1) 支援対象者の変化

- ◆「余暇支援」「学習支援」「行動支援」「相談支援」などを通して対象者の活動範囲が広がり社会体験ができる。
- ◆日常生活における対人関係のアドバイスをを行うことで、対人スキルや社会生活スキルを学ぶことができる。
- ◆サポーターに自分の話を聴いてもらえる、悩みに共感してもらえる、一緒に活動を楽しむ体験ができる。
- ◆効果検証より、サポーター活動は対象者の「自己受容」「自己実現態度」「充実感」を高められる可能性がある。

# 考察

## (2) 安定したサポート活動に必要なこと

### ① サポーターの育成(継続性)

- ◆事例検討会でのサポーター活動の振り返りや、サポーター同士の意見交換は活動へのモチベーションの促しや発達障害者の理解、ピアサポートにつながる。
- ◆活動報告に対するフィードバックなど、サポーターの悩みや不安に対する支援は、サポーターの活動への安心感につながる。
- ◆サポーターを心理的に支えることや活動のスケジュール管理を行うセンター担当者の役目、スーパーヴァイズやサポーター同士の横のつながりの機会を提供することが重要である。
- ◆サポーター派遣だけではなく、センター担当者の本人、家族への並行面接の取り組みが対象者の動きや安定性につながるため、連携が重要である。
- ◆サポーター活動を大学のカリキュラムに位置付け大学と連携を図ることは、本事業の継続性につながる。

### ② サポーターの変化

- ◆教員など専門職を目指す学生にとって、実際の体験は将来の具体的なイメージを持つことができ実習の場にもなる。

# まとめ

まずは年齢の近い者同士との、ごく普通のつきあいから学べることを重視することが大切である。

# 課題

## ■ サポーター養成

- 男性サポーター
- 社会人サポーター
- 困難事例へ対応できるサポーター
- 定期的なサポーター派遣

## ■ 継続性

- 大学との連携

## ■ 効果検証方法

- 尺度の検討

# (4) サポーター必携の作成

## 内容

- 発達障害の基礎知識
- 発達障害者サポーター養成・派遣事業説明
- 発達障害者サポーター活動の心得
- 発達障害者サポーターの関わり  
(先輩サポーターからの声)

## 2 発達障害者支援コンサルタント 養成・派遣事業

# 事業目的

- 発達障害者支援関係者に対しコンサルテーションで  
きる指導者を県内各地に養成すること
- ライフステージに応じた本人・家族への支援が身近  
なところで可能となること
- 発達障害者支援コンサルタントチームを設置し、派  
遣要請のあった機関に出向き、発達障害者支援に対  
する望ましい支援のあり方・対応等に関する専門的な  
指導・助言を行うこと



# 事業方法

## ■養成対象者

発達障害者支援に関わる精神科医・臨床心理士・保健師・OT・施設相談員・スクールカウンセラー・地域療育等コーディネーター・圏域マネージャー等の医療・保健・福祉・教育等関係者

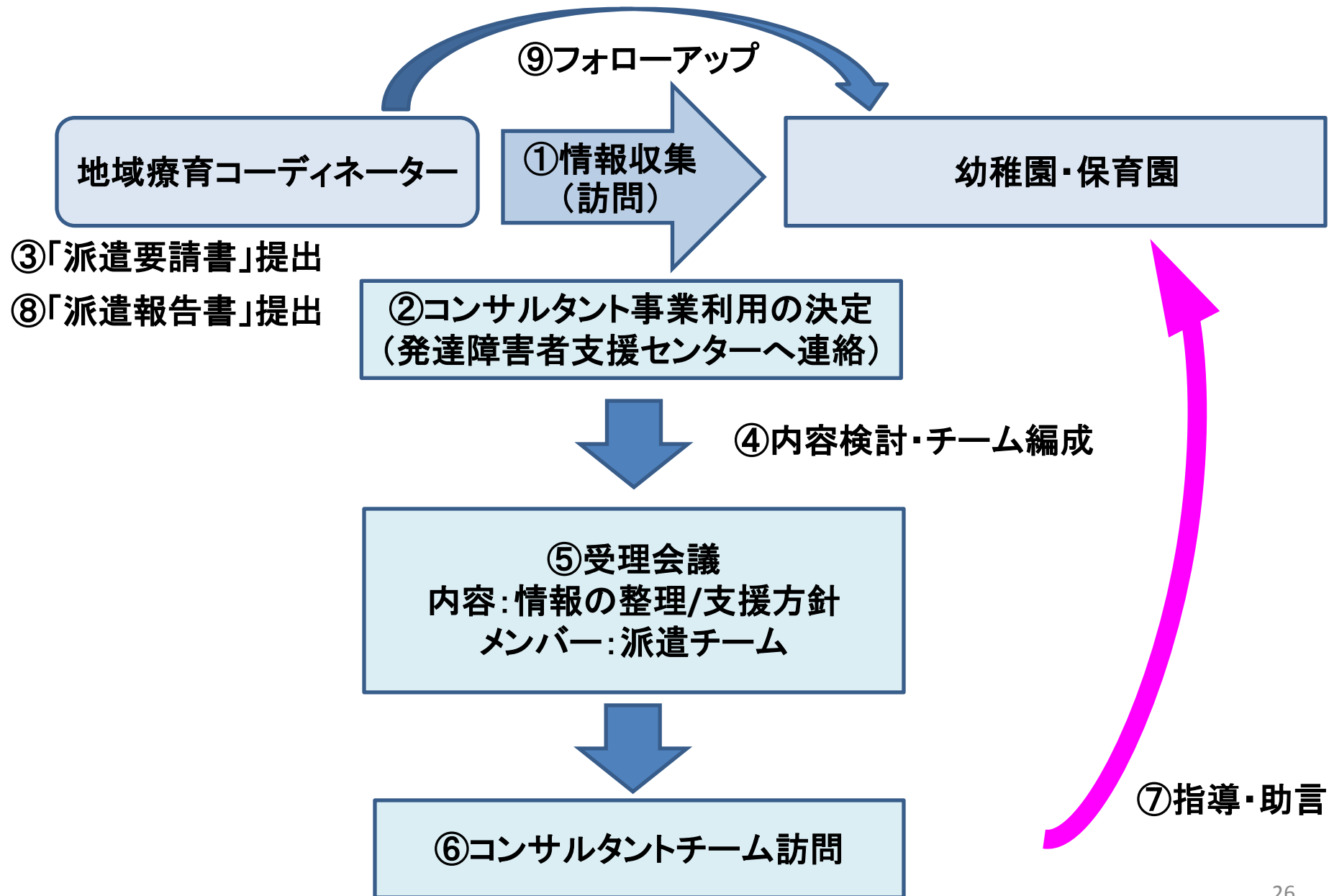
## ■養成研修の開催

## ■派遣内容

圏域の地域療育等支援コーディネーターを中心に2～3名のコンサルタントで構成した発達障害者支援コンサルタントチームを、センターに設置し、保育園・幼稚園等派遣要請のあった機関に出向き、望ましい支援のあり方・対応等に関する専門的な指導・助言を行う。

派遣回数：4保健福祉事務所 × 5回（年間20回）<sup>25</sup>

# 発達障害者支援コンサルタント派遣の流れ



# 事業結果

## ■平成20年度

「コンサルタント養成研修修了者」32名を養成

基礎研修2回 / 実務研修1回

発達支援研修3回 / モニタリング研修1回

## ■平成21年度

コンサルタントのフォローアップ研修

発達支援研修3回 / モニタリング研修3回

コンサルタント派遣

受理会議8回 / 派遣8回

効果検証

アンケート調査の実施

## ■コンサルタント派遣実績一覧

	機関	事前会議 メンバー	派遣メンバー	保護者の同意
1	幼稚園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター、保健師	あり(同席)
2	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP	なし
3	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター	なし
4	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター	なし
5	幼稚園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター	なし
6	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター、保健師	なし
7	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP、特支コ、センター	なし
8	保育園	地コ、CP、センター	地コ、CP、センター	なし

地コ＝地域療育コーディネーター

特支コ＝特別支援コーディネーター

CP＝臨床心理士

センター＝発達障害者支援センタースタッフ

# 事業効果検証 結果(1)

(コンサルタントへのアンケート結果から読み取れること)

## ■発達障害者支援コンサルタント養成事業

【対象者】平成21年度フォローアップ研修を受講した発達支援コンサルタント  
(受講者27名中20名 回答率75%)

【方法】フォローアップ研修開始時(7/18)と研修終了時(1/13)アンケートを実施

【結果】事前アンケートと事後アンケートの比較

(5点:できる 4点:ややできる 3点:どちらともいえない 2点:ややできない 1点:できない)

- ・ コンサルテーションの内容・方法・視点等が理解できている(増加率1位)
- ・ 地域生活支援に役立つケースマネジメントができている(増加率2位)
- ・ コンサルテーションに必要な知識を習得ができている(増加率3位)

## ◆支援スキル向上の機会

発達研修により、最新の知識と必要な知識を習得できる。また、園へのコンサルテーションとその振り返りを行うモニタリング研修は、派遣していないコンサルタントにとっても体感できる機会であり技能の獲得につながった。

## ◆地域の支援ネットワークづくりの場

地域性を考慮し研修運営することで、職種の役割や特性など互いに理解し相互に学び合えた。また、実際の地域活動でも連携するなど全体的スキルの向上につながった。

# 事業効果検証 結果(2)

(派遣要請機関へのアンケート結果から読み取れること)

## ■発達障害者支援コンサルタント派遣事業

【対象者】派遣要請機関

【方法】アンケート調査

【結果】本事業を利用しての満足度(5段階評価)

(7機関中、100%が1機関、75%が4機関、50%が2機関)

- ・ これまで関わりのあるコーディネーターが窓口になることで安心できた(満足)
- ・ 子どもの支援方法についての助言が参考になった(満足)
- ・ もう少し時間をかけて現状を見てもらい助言がほしかった(不満足)
- ・ 保護者の対応について、具体的な助言がほしかった(不満足)

## ◆園へのコンサルテーションの効果

保護者の対応に苦慮する事例が多く、具体的な助言を強く求められている。  
チーム編成して派遣するため、時間設定に課題があった。

## ◆コンサルタントの実地研修の場

個々のコンサルタントの経験や力量に差があるため、職種の役割や特性を生かしながら、チームとして派遣することで、学び合うことができた。

# 考察

## (1) 支援スキルの向上

- ・ コンサルタントをチーム編成して派遣することで、実際のコンサルテーション活動を通じてコンサルタント同士が学び合う機会となった。
- ・ フォローアップ研修において、実際にコンサルタント活動を実施した事例について検討することで、派遣していないコンサルタントも体験的に学習することができる。

## (2) 地域療育等支援コーディネーターの役割

### ① 事前調整の重要性

- ・ コンサルタント派遣の前段階で、地域療育等支援コーディネーターが園との事前の調整(情報収集や観察場面の設定、調整等)の役割が担えると、効果的なコンサルテーションが行える。

### ② 派遣後の連携～支援体制の充実

- ・ 困難事例等は、アフターフォローを要することが多いため、その後は地域療育等支援コーディネーターが中心に、地域の支援体制づくりを担えることが期待される。

# まとめ

- コンサルタント派遣は、コンサルタントの養成として体験的に学習できる研修方法であり、コンサルタント同士が相互に学び合う機会となることから、結果として全体の支援スキルの向上が図れる。
- コンサルテーション活動を通じて、地域の支援体制が整うことが期待できる。



# 今後について

平成17年度～19年度 発達障害者支援体制整備事業  
平成20年度～21年度 発達障害者支援開発事業



平成22年度～ 発達障害者支援体制整備事業  
発達障害者支援開発事業

## 【ねらい】

より身近な市町村において、乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する一貫した支援体制の整備を図り、発達障害(児)者の福祉の向上をめざす。

- 支援体制整備事業→市町村支援体制強化事業(モデル市町村)コンサルタント等の巡回相談
- 支援開発事業→成人期以降における生活支援プログラムの開発  
発達障害者サポーター養成・派遣事業継続